



いずもしかんきょう

出雲市環境レポート2008

(2007年度のまとめ)



神話から未来へつなぐ さわやかな環境のまち 出雲



出雲市

はじめに

本市では平成 18 年度（2006）に、市民・事業者・行政が「神話から未来へつなぐ さわやかな環境のまち・出雲」をつくっていくために必要な取り組みを示した「出雲市環境基本計画」を策定しました。この計画では、本市のすばらしい環境を次世代に伝えていくため、環境の保全や地球温暖化防止に向けた市の取り組み、市民・事業所の行動や目標などを定めています。



出雲市民の誓い「イメージイラスト（環境）」

「出雲市環境レポート」は、出雲市環境基本計画の進捗状況を点検・評価し、確実に進めるよう見直すとともに、より多くの方に本市の環境に関する取り組みをご覧いただき、取り組みにつながっていただくこと等を目的に、毎年発行することとしています。

もくじ

出雲市環境基本計画のあらまし	1
「出雲市地域省エネルギービジョン」の策定	4
「出雲市次世代エネルギーパーク計画」の策定	5
基本目標 1 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち	6
基本目標 2 人と自然がふれあい ともに生きるまち	9
基本目標 3 悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち	12
基本目標 4 「もったいない」の心で築く 循環型のまち	14
基本目標 5 地球を考え 地域から実践するまち	16
基本目標 6 とともに学び行動する 環境意識が高いまち	19
市民意識調査結果	21
はじめよう省エネライフ	23

出雲市環境基本計画のあらまし



本市には、宍道湖、神西湖をはじめとした心安らぐ水環境や、国引き神話で知られる島根半島、中国山地の豊富な緑などがあり、とても豊かな自然環境に恵まれています。また、多くの歴史・景観資源を有しており「神話のふるさと」として全国に誇るものです。

出雲市環境基本計画は、こうしたすばらしい環境を次世代に伝えていくため、地域代表者、有識者、議会議員、団体代表、事業所代表など 20 人で構成する出雲市環境審議会において策定しました。

この計画では

- ・「澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち」【生活環境の目標】
- ・「人と自然がふれあい とともに生きるまち」【自然環境の目標】
- ・「悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち」【快適環境の目標】
- ・「「もったいない」の心で築く 循環型のまち」【循環型社会構築の目標】
- ・「地球を考え 地域から実践するまち」【地球環境の目標】
- ・「ともに学び行動する 環境意識が高いまち」【環境学習や環境保全活動の目標】

の 6 つの基本目標を設定し、実現していくための考え方や行動を示しています。

環境の将来像

神話から未来へつなぐ さわやかな環境のまち・出雲

計画の期間：平成 19 年度 (2007) から平成 28 年度 (2016) までの 10 年間

なお、5 年後の平成 24 年度 (2012) に見直しを行います。



6つの基本目標

生活環境の目標

基本目標 1 澄んだ空気ときれいな水に潤い
健康に暮らせるまち

大気環境の保全 ①車などの排気ガスの削減
②大気汚染の防止

水環境の保全 ①水域への排水対策
②泳げる川と湖の創造
③海域の保全

健康に暮らせる環境の保全 ①騒音・振動・悪臭の防止
②アスベスト問題への対応
③住みよい暮らしづくり



快適環境の目標

基本目標 3 悠久の歴史が息づく
美観と快適空間のまち

景観保全と緑地の確保 ①自然・歴史的景観の保全と活用
②花と緑の確保
③公園の整備と利用促進

環境美化の推進 ①ポイ捨て・不法投棄への取り組み
②清掃活動の充実



地球環境の目標

基本目標 5 地球を考え
地域から実践するまち

地球温暖化防止の取り組み ①温室効果ガス抑制への取り組み
②危機意識を高めるための取り組み

地球規模での環境問題への取り組み ①オゾン層を守る取り組み
②他国からの漂着ごみ・黄砂への対応



自然環境の目標

基本目標 2 人と自然がふれあい
ともに生きるまち

野生動植物との共生 ①トキと人が共生可能な環境づくり
②生態系を守る取り組み

豊かな自然とのふれあい ①自然環境の保全
②自然とのふれあいの機会の創出

森林と農地の保全と再生 ①森林を守り育てる取り組み
②農地の適正管理と活用
③里山の保全と有効な活用



循環型社会構築の目標

基本目標 4 「もったいない」の心で築く
循環型のまち

廃棄物対策と資源循環の推進 ①3R(発生抑制・再利用・再生利用)の推進
②廃棄物の適正処理の推進
③もったいない運動の推進

環境と経済の好循環の推進 ①新エネルギーの普及と利用促進
②環境に優しい製品の普及と利用促進



環境学習や環境保全活動の目標

基本目標 6 とともに学び行動する
環境意識が高いまち

環境学習・環境保全活動の推進 ①学校や地域での環境学習機会の充実
②環境保全活動の推進
③ISO14001 普及への取り組み

環境情報の提供と共有 ①環境情報提供の充実
②環境啓発イベントの推進



■ 取り組みチェック ⇒ P・D・C・A

出雲市環境基本計画の取り組みは「P・D・C・A サイクル」でチェックします。

「P・D・C・A サイクル」とは「Plan (計画)」→「Do (実施)」→「Check (点検)」→「Action (見直し)」の一連のサイクルの繰り返しにより、継続的な改善を図るものです。

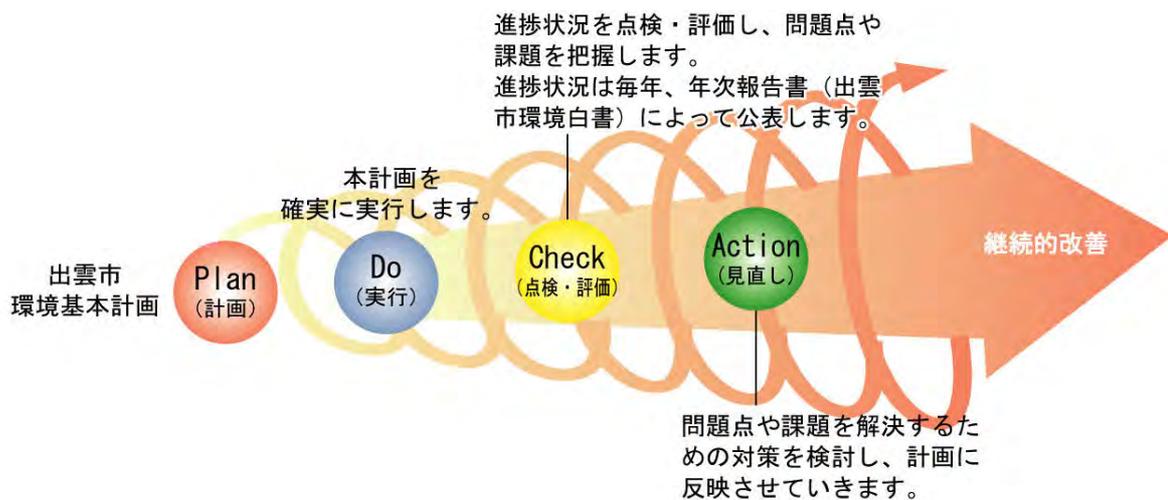


Plan (計画)・・・方針・目標の設定

Do (実施)・・・行動計画の実施

Check (点検)・・・実施状況、成果の点検

Action (見直し)・・・不適合部分の見直し、目標・計画の修正



トピック

ご存じですか? 「出雲市環境審議会」

学識経験者、市民団体等から組織され、環境保全(廃棄物・騒音・水質など環境に関するすべての項目)に関する基本的項目について調査、審議を行い、意見を答申する会です。

「出雲市環境基本計画」の策定についても審議を行い、この計画を推進する中心的な役割も担っています。



出雲市環境審議会

「出雲市地域省エネルギービジョン」の策定

平成 19 年度に「出雲市地域省エネルギービジョン」を策定しました。

このビジョンは「出雲市環境基本計画」の基本目標に掲げる「地球を考え 地域から実践するまち」「ともに学び行動する 環境意識の高いまち」の実現を更に進めるため、市から排出される二酸化炭素(以下、CO₂)の削減目標値を設定し、市民・事業者・市が協働して地球温暖化防止や省エネ対策などの取り組みを推進するための具体的な行動指針を定めたものです。

平成 20 年度より、このビジョンに基づいて CO₂ 排出量の削減に向けた様々な取り組みを推進しています。

キャッチフレーズ	神話の国で省エネライフ～スローライフを目指し健康で安全な省エネルギーのまち～
目標年度	平成 28 年度(2016)〔基準年度は平成 18 年度(2006)〕 なお、3 年ごとに見直しを行います
目標数値	エネルギー起源 CO ₂ 排出量を平成 18 年度(2006)比 約 20%削減 平成 2 年度(1990)と同じ水準に抑制(産業部門を除く)



用語解説 エネルギー起源 CO₂

燃料などの使用、供給された電気の使用や熱の使用により排出される二酸化炭素のことです。
化学反応で発生・排出されるものや、廃棄物の焼却で発生・排出される二酸化炭素は含まれません。

3 つの基本方針のもと、省エネルギー推進に向けたアクションプランを設定しています。

基本方針 1 地球を考え・学ぶ 【意識の向上】



環境学習推進プラン
①(仮称)いずも環境講座の開催
②エコライフ・スローライフ体験学習等の推進
③学校における省エネ学習の推進
④「こどもエコクラブ」の活動促進

環境啓発イベント推進プラン
①イベント等での啓発
②環境にやさしいイベント運営
③市民・事業者の環境啓発支援

情報発信プラン
①具体的な省エネメニューの発信
②市民・事業者・市の取り組み効果の公表

環境マネジメントシステム(EMS)普及促進プラン
①家庭版環境 ISO の普及
②事業所における「ISO14001」や「エコアクション21」等の普及
③「学校版エコライフチャレンジしまね」の普及
④市の環境マネジメントシステム等の運用

基本方針 2 省エネルギーを実践する 【省エネ実践】



省エネ行動強化プラン
①緑のカーテンの普及
②マイカー利用の自粛
③ごみ減量化の推進
④市民運動の推進

省エネメリット還元プラン
①省エネポイント制度の創設

機器等の導入促進プラン
①公共施設への積極的導入
②事業所における省エネルギー診断の推進
③家庭・事業所における機器等の導入促進
④省エネ機器・新エネ機器の導入支援の検討

基本方針 3 取り組みを継続・拡大する 【取り組みの継続・拡大】

推進組織の設立プラン
①(仮称)出雲市環境保全推進協議会の設立



「出雲市次世代エネルギーパーク計画」の策定

平成 19 年度に「出雲市次世代エネルギーパーク計画」を策定しました。

この計画は、市全体を新エネルギーのテーマパークと見立て、新エネルギーの学習や情報収集・発信の拠点として位置づける出雲科学館などの公共施設と、実際に新エネルギーを生産している施設を相互に結びつけることによって、新エネルギーに関する普及・啓発を図るものです。

市では、この計画の実現を目指し、環境保全の取り組みを推進するとともに、経済・産業の振興につなげることをしています。

なお、資源エネルギー庁では地方自治体等を対象に、次世代エネルギーパークとしてふさわしい計画を公募・公表することにより、その整備の更なる推進を図ることをしています。

平成 20 年 6 月、「出雲市次世代エネルギーパーク計画」は資源エネルギー庁の認定を受けました。

■新エネルギー関連施設・設備分布図



基本目標1【生活環境の目標】澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

出雲市環境基本計画では、大気汚染測定値(浮遊粒子状物質:SPM)や類型指定河川水質(BOD)、ダイオキシン類の測定値などを「現状維持」、湖沼・海域の水質(COD)、騒音・振動の測定値などを「環境基準値内」等と目標を定めています。

大気環境は、光化学オキシダントを除いた3項目(二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質)とも環境基準を達成しており、おおむね良好な環境が維持されているといえます。

水環境は「類型指定河川」及び「海域」の水質測定値は環境基準を達成していますが、「類型未指定河川」及び「湖沼」は環境基準を超えています。また、「水質調査箇所数」及び「河川・湖における水浴適否調査の適合率」は計画策定時から横ばいとなっています。

■大気環境の保全

【網掛け】中間値または目標値を達成

目標設定項目	H17(2005) 計画策定時	H19(2007) 現状値	H23(2011) 中間値	H28(2016) 目標値
① 大気汚染測定値(SPM) 【参考】環境基準値 0.1mg/m ³	年平均値 0.022mg/m ³ H16(2004)年度	0.025mg/m ³ H18(2006)年度 	環境基準内を維持	環境基準内を維持
② 市の廃食用油回収によるバイオディーゼル燃料製造量	28,230L	40,405L	60,000L	80,000L
③ 3km未満の市職員のノーマイカー通勤率 ※〔 〕はCO ₂ の年間排出量	57% H18(2006)年度 〔74,400kg-CO ₂ 〕	46% 〔49,598kg-CO ₂ 〕	80% 〔34,800kg-CO ₂ 〕	80% 〔34,800kg-CO ₂ 〕
④ 空気のきれいさに対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	84% H18(2006)年度	87% H20(2008)年度 	85%	90%

- ① 「浮遊粒子状物質(SPM)」は環境基準を達成しており、良好な大気環境が保たれていると言えますが、計画策定時と比較するとわずかながら増加しています。
- ② 「市の廃食用油の回収によるバイオディーゼル燃料製造量」は約12,200L増加し、中間値の約67%に達しています。
- ③ 「3km未満の市職員のノーマイカー通勤率」は減少していますが、通勤者数の減少によりCO₂排出量は計画策定時から約25t-CO₂(H18年度比33%)減少しています。
- ④ 「空気のきれいさに対する満足度」は向上し、既に中間値を達しています。目標達成まであと3ポイントとなっています。



用語解説

大気汚染測定値(浮遊粒子状物質:SPM)

大気中に浮遊する粒子状物質で粒径が10ミクロン以下のものを言います。SPMは微小のため大気中に長時間滞留し、肺や気管などに沈着して高濃度で呼吸器に悪影響を及ぼします。

環境基準

環境基本法に基づき政府が定める、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で、維持されることが望ましい基準のことです。



トピック

市の廃食用油回収によるバイオディーゼル燃料製造

バイオディーゼル燃料とは、市内の家庭などで使用された“てんぷら油(植物油のみ)”を軽油の代替燃料としてリサイクルした燃料です。本市では市民生活バスの燃料としてそのバイオディーゼル燃料を使用しています。



水環境の保全

【網掛け】中間値または目標値を達成

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 類型指定河川水質 (BOD) 【参考】環境基準値 1mg/l (3 地点)、2mg/l (6 地点)	達成	達成 	環境基準内を維持	環境基準内を維持
② 類型未指定河川水質 【市独自目標】BOD5mg/l 以下	未達成	未達成	目標値内を維持	目標値内を維持
③ 湖沼水質 (宍道湖・神西湖) (COD) 【参考】環境基準値 (宍道湖 3mg/l・神西湖 5mg/l)	未達成	未達成	環境基準内を維持	環境基準内を維持
④ 海域水質 (日御碕・おわし海水浴場) (COD) 【参考】環境基準値 2mg/l	未達成 2.2mg/l	達成 1.8mg/l 	環境基準内を維持	環境基準内を維持
⑤ 水質調査箇所数	43 箇所	43 箇所 	43 箇所以上	43 箇所以上
⑥ 河川・湖における水浴適否調査の適合率	75% H18 (2006) 年度	75%	80%	90%
⑦ 廃食用油回収量	28,230L	40,405L	60,000L	80,000L
⑧ 汚水処理人口普及率	61.4%	66.9%	77%	87%
⑨ 水のきれいさに対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	45% H18 (2006) 年度	53% H20 (2008) 年度 	50%	70%

①～⑥ 「類型指定河川①」及び「海域④」の水質測定値は環境基準を達成していますが、「類型未指定河川②」及び「湖沼③」は環境基準を超えています。また、「水質調査箇所数⑤」及び「河川・湖における水浴適否調査の適合率⑥」は計画策定時から横ばいとなっています。

⑦ 「廃食用油回収量」は約 12,200L 増加し、中間値の約 67%に達しています。

⑧ 「汚水処理人口普及率」は 5.5 ポイント増加し、中間値まであと約 10 ポイントとなっています。

⑨ 「水のきれいさに対する満足度」は向上し、既に中間値に達しています。

健康に暮らせる環境の保全

【網掛け】中間値または目標値を達成

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 騒音測定値 (環境基準)	未達成	未達成	環境基準内を維持	環境基準内を維持
② 振動測定値 (要請限度)	要請限度値内	要請限度値内 	要請限度値内を維持	要請限度値内を維持
③ 騒音振動に対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	64% H18 (2006) 年度	69% H20 (2008) 年度 	65%	80%
④ においに対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	68% H18 (2006) 年度	77% H20 (2008) 年度 	70%	80%
⑤ ダイオキシン類測定値	環境基準値内 H16 (2004) 年度	環境基準値内 	環境基準内を維持	環境基準内を維持

①②⑤ 「騒音測定値①」は環境基準に達していませんが、「振動②」及び「ダイオキシン類⑤」の測定値は、いずれも基準を達成しています。

③④ 「騒音振動に対する満足度③」及び「においに対する満足度④」は向上し、既に中間値に達しています。「においに対する満足度」は目標達成まであと 3 ポイントとなっています。



用語解説 類型指定河川

水質汚濁の環境基準は、河川、湖沼、海域ごとに利用目的に応じた類型とその基準値が定められており、国または都道府県知事がその水域を指定します。本市の河川では斐伊川、神戸川、平田船川、湯谷川が指定されています。

類型未指定河川

新内藤川、古井手川、赤川、保知石川、十間川、新町下水については、類型未指定河川として、魚が住める指標を参考に、本市独自の目標を設定しています。

基本目標 1【生活環境の目標】
 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

◆その他の数値(参考)

・主な河川の BOD 値

	主な河川の BOD 値		
	斐伊川	神戸川 (下流)	平田船川 (下流)
環境基準	1mg/L	2mg/L	2mg/L
H15(2003)年度	0.9	0.7	1.6
H16(2004)年度	0.7	0.7	1.6
H17(2005)年度	0.6	1.0	1.6
H18(2006)年度	0.7	0.5	1.4
H19(2007)年度	0.7	1.0	2.0

資料：島根県資料（斜字は環境基準を達成）

・下水道整備状況

汚水処理人口普及率	
出雲市	
H19(2007)年度末	66.9%
H17(2005)年度末	61.4%
島根県	
H18(2006)年度末	63.9%
H16(2004)年度末	58.8%
全国平均	
H18(2006)年度末	82.4%
H16(2004)年度末	79.4%
出雲市水洗化率※ ¹ 〔接続人口/供用人口〕	88.2%

資料：出雲市資料

※1：H19(2007)年度現在

・近年の苦情処理件数

年度	件数
H15(2003)年度	88
H16(2004)年度	119
H17(2005)年度	175
H18(2006)年度	138
H19(2007)年度	154

※野焼き、悪臭、騒音等
 資料：出雲市資料



用語解説

BOD

生物化学的酸素要求量のこと、河川の汚濁の度合を示す指標です。数値が大きいほど汚濁が進んでいることを示します。

COD

化学的酸素要求量のこと、湖沼や海域における水中の有機物による汚濁の程度を示す代表的な指標です。数値が大きいほど汚濁が進んでいることを示します。

◆平成 19 年度の取り組み

・河川等の水質検査

市内43ヶ所の河川等で水質検査を実施しており、PH（水素イオン）・BOD（生物化学的酸素要求量）・DO（溶存酸素量）・SS（浮遊物質）など9項目の検査をしています。

中心部河川の一部ではT-N（全窒素）やT-P（全リン）の数字が基準値を超えていますが、その他の河川では概ね環境基準内の数値結果となっています。公共下水道の整備及び接続率が上がってきた県河川・赤川では鯉が見られるようになりました。



・水辺の環境活用事業

神西湖において、約80人が参加し、野鳥の観察やウォークコースに設けた問題を解きながら周辺のゴミ拾いを行いました。小学生もたくさん参加し、自然の大切さを感じてくれました。



・公共下水道の整備

公共下水道の整備や接続率の向上に向けて、平成18年12月新市で統一した「整備計画」を策定しました。

この計画をもとに、さらに効率的な整備を進めています。

基本目標2【自然環境の目標】人と自然がふれあい ともに生きるまち

出雲市環境基本計画では、出雲地域固有の動植物を適切に保全し、人との共生を図るとともに、自然に親しむ環境づくりや、国土保全など環境面からも大きな機能を有している森林・農地の保全・再生を目標としています。

本市では、宍道湖自然体験活動「親子しじみウォッチング」や出雲科学館において「カエルの教室」、「野の体験」など 12 種類の自然・環境教室を開催し、自然に親しむ環境づくりを進めています。

■野生動植物との共生

【網掛け】中間値または目標値を達成

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 野生動植物の生息に対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	55% H18 (2006) 年度	60% H20 (2008) 年度 	60%	70%

- ・「野生動植物の生息に対する満足度」は向上し、既に中間値に達しています。

■豊かな自然とのふれあい

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 自然体験事業参加者数	600 人	813 人	1,000 人	1,500 人
② 自然体験市有施設の利用者数 (うさぎ森林公園・目田森林公園・見晴らしの丘公園・風の子楽習館・浜遊自然館)	110,000 人	102,116 人	113,000 人	116,000 人

- ① 「自然体験事業参加者数」は 200 人程度増加し、中間値の約 81%に達しています。
- ② 「自然体験市有施設の利用者数」は約 8,000 人減少し、中間値の約 90%となっています。

■森林と農地の保全と再生

【網掛け】中間値または目標値を達成

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 針葉樹・広葉樹の植林面積(年当たり) ※1ha あたり約 3,000 本	6.5ha	7.8ha 	6.5ha	6.5ha
② グリーンツーリズム(田舎体験)の受入れ団体数	0 団体	9 団体 	5 団体	10 団体
③ アグリビジネススクール卒業生数(累計)	43 人 H18 (2006) 年度	83 人	268 人	493 人
④ 学校給食における地場産品の使用割合	23%	23%	30%	30%
⑤ 野山や田畑の豊富さに対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	78% H18 (2006) 年度	82% H20 (2008) 年度 	80%	85%

- ①②⑤ 「学校給食における地場産品の使用割合」及び「アグリビジネススクール卒業生数」以外は既に中間値に達しています。
- ①②⑤ 中でも、「針葉樹・広葉樹の植林面積①」については目標を達成し、「グリーンツーリズムの受入れ団体数②」については目標達成まであと 1 団体、「野山や田畑の豊富さに対する満足度⑤」はあと 3 ポイントとなっています。
- ④ 「学校給食における地場産品の使用割合」は横ばいとなっていますが、その他の項目については増加・向上しています。



用語解説

グリーンツーリズム

都市住民が豊かな自然や美しい景観を求めて農山漁村を訪れ、交流や体験を通じて楽しむ余暇活動、田舎体験のことです。

アグリビジネススクール

平成 18 年 7 月に、地域農業やアグリビジネスを実践・牽引する人材づくりの場として、県内で初めて本市が開校しました。アグリビジネスとは、農業と加工・流通・販売・観光・交流などを組み合わせた高付加価値型農業に取り組む、農業分野におけるニュービジネスです。

◆平成19年度の取り組み

・宍道湖自然体験活動事業

子どもたちを中心に184人が参加し、宍道湖公園湖遊館周辺において、宍道湖の自然についてお話を聞いたり、しじみ採りや湖上でのカヌー体験、ゴビウスで魚の観察などを行いました。



・自然環境学習事業

出雲科学館を中心に、草花観察やカエルをとりまく環境についてなど、自然・環境学習教室を開催しました。

1年を通じて12種類、合計37回の教室を開催し、529人が参加しました。



・「出雲ふるさとの森」事業

横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏の指導のもと、平成13年度から毎年、シイ、タブ、カシなど広葉樹の植栽を行っています。

平成19年度は湖陵総合公園を会場とし、湖陵小学校の児童と市民550人で約4,000本の苗木を植えました。

これまでの事業により、3.35haに緑が蘇っています。今後も森林の持つ機能を回復させ、保全していくため、市民とともに取り組んでいきます。



・トキの分散飼育地誘致に向けて

本市では、国際保護鳥であるトキをシンボルとした地域づくりを推進しており、平成19年度現在、7羽のアフリカクロトキと4羽のショウジョウトキを飼育しています。

また、上野動物園から譲り受けた卵の人工ふ化に2例成功し、国が計画している分散飼育の指定に向けた取り組みを強化しています。



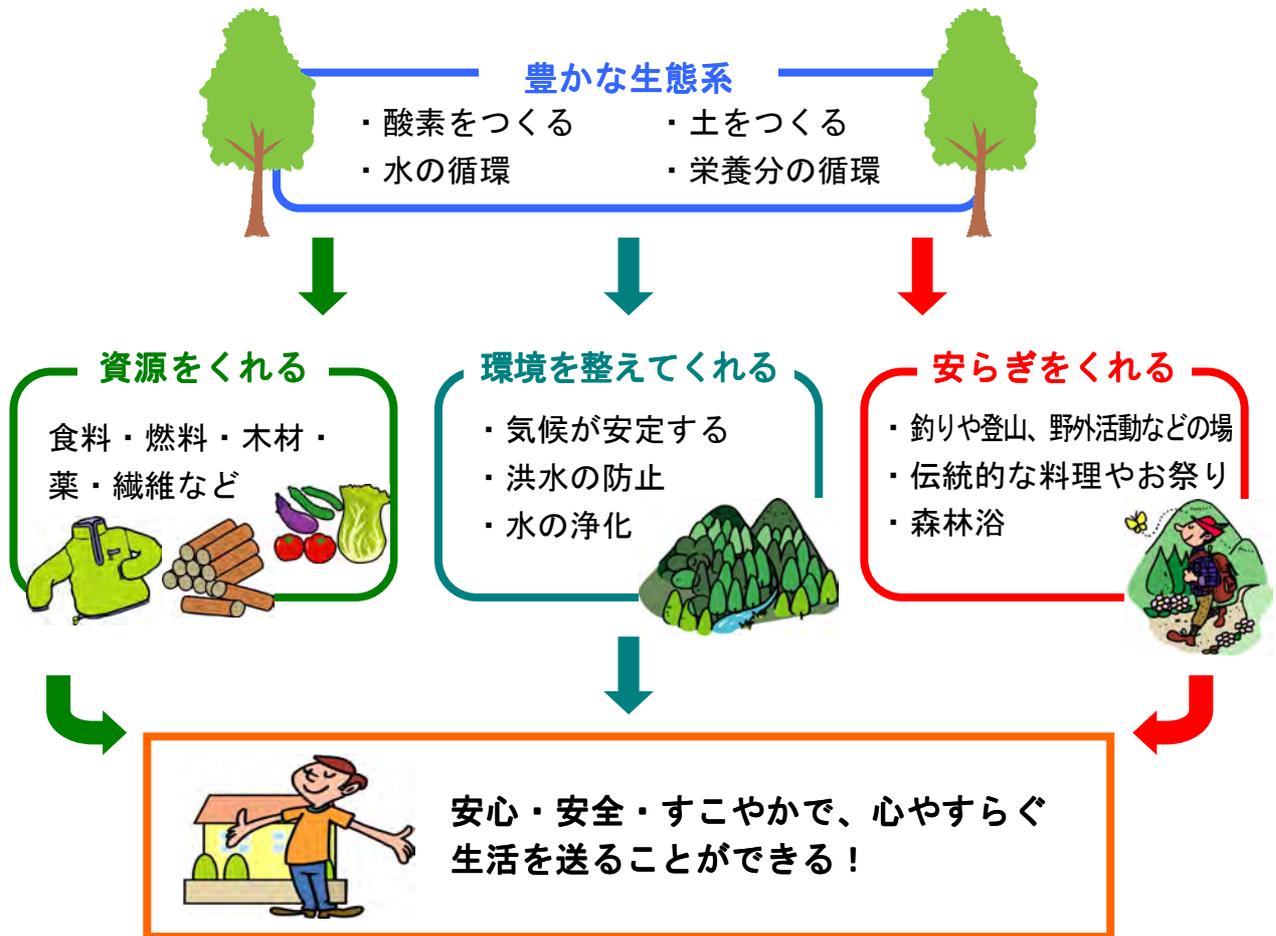
トピック

平成20年12月19日、環境省において、斉藤環境大臣から出雲市長へ直接「決定通知」が手渡され、出雲市がトキ分散飼育地として正式に決定し、トキ分散飼育に向けて大きく前進しました。

また、平成20年度は更にふ化(人工ふ化6、自然ふ化2)に成功し、平成20年12月現在、アフリカクロトキ15羽、ショウジョウトキ4羽の計19羽を飼育しています。



豊かな自然は私たちにたくさんの恵みを与えています



用語解説

生態系

自然界に存在する全ての生物は、それぞれが独立して存在しているのではなく、食うもの・食われるものなど相互に影響しあって自然界のバランスを維持しています。これらに加えて気象、土壌、地形などの環境も含めて「生態系」と呼びます。お互いに関係を持ちながら安定が保たれており、一つでも乱れるとその影響が全体に及ぶだけでなく、場合によっては回復不能になることもあります。

森林について

森林は、光合成により二酸化炭素を吸収し、酸素をつくりだし、そして食料や燃料を提供するなど人間の営みを支えています。また、木は、土に根をおろし、水の保水や土砂の流出を防ぐ働きがあるため、渇水や洪水を防止しています。

世界の陸地の30%は森林です。しかし現在、世界中の森林が急速に減っています。特に地球の生物の約半分の種類が住んでいるといわれている熱帯の地域の森は深刻な状況です。原因は、燃料や紙、木材にするために必要以上に木を切ったり、熱帯林を焼きはらって畑にしたり、森を切りひらいて牧場にするためです。

このまま森林の減少が進むと、二酸化炭素増加による地球温暖化や砂漠化が進んでしまいます。

(参考：平成19年版子ども環境白書、環境省)

基本目標3【快適環境の目標】悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち

本市には、古くからの町なみや築地松など特徴ある景観が多く見られ、市内の様々な緑は潤いと安らぎのある快適な空間をつくりだしています。

本市では緑化及び防災を推進するため、公道に面する住宅敷地に生け垣を設置される方に対し「生け垣設置奨励金」を交付する他、公園・街路への植樹を推進するなど、緑地の確保と創出に努めています。

■景観保全と緑地の確保

【網掛け】中間値または目標値を達成

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 生垣奨励補助金件数	24 件	26 件	35 件	40 件
② 都市公園整備率(1人あたり)	11.7m ²	12.24m ²	13.5m ²	14.0m ²
③ 街路樹の植栽本数(累計：中・高木)	2,330 本	2,393 本	2,880 本	3,430 本
④ 出雲「花と緑」総合フェスティバル 入場者数	20,000 人	20,000 人 	20,000 人	20,000 人
⑤ 公園や広場に対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	47% H18 (2006) 年度	58%  H20 (2008) 年度	50%	55%
⑥ 都市の緑化に対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	51% H18 (2006) 年度	54% H20 (2008) 年度	55%	60%
⑦ 景観に対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	42% H18 (2006) 年度	46% H20 (2008) 年度	50%	60%

①～⑦ 中間値に対し、「生垣奨励補助金件数①」は約 74%、「都市公園整備率②」は約 91%、「街路樹の植栽本数③」は約 83%に達しています。また、「都市の緑化に対する満足度⑥」はあと 1 ポイント、「景観に対する満足度⑦」はあと 4 ポイントとなっています。

④⑤ 「出雲「花と緑」総合フェスティバル入場者数④」及び「公園や広場に対する満足度⑤」は目標を達成し、その他の項目についてはいずれも増加・向上しています。

■環境美化の推進

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① ポイ捨て一掃大作戦参加者数	7,000 人	7,384 人	10,000 人	15,000 人
② ポイ捨てごみの回収量(定点観測)	— H19 (2007) 年度観測開始	8.5kg	5.1kg 40%削減	1.7kg 80%削減
③ 美化サポートクラブ登録団体数	5 団体	10 団体	20 団体	40 団体
④ 環境美化に対する満足度 ※アンケートの無回答を除いた割合	28% H18 (2006) 年度	29% H20 (2008) 年度	50%	80%

①③④ 「ポイ捨て一掃大作戦参加者数①」は中間値の約 74%、「美化サポートクラブ登録団体数③」は約 50%に増加しています。しかし、「環境美化に対する満足度④」は概ね横ばいとなっており、中間値まであと約 20 ポイントとなっています。

② 「ポイ捨てごみの回収量」は 8.5kg となっており、中間値では 5.1kg、目標値では 1.7kg に抑制することとなります。

◆平成 19 年度の取り組み

・ポイ捨て禁止キャンペーンやポイ捨て一掃大作戦

本市では年間を通じて「ポイ捨て禁止キャンペーン」を実施しています。

また、出雲地域（出雲市・斐川町）では毎年 10 月を「ポイ禁月間」とし、「出雲地域 18 万人ポイ捨て一掃大作戦」と題して、住民・各種団体による清掃活動を実施しています。

その他、8 月には「出雲地域一斉不法投棄パトロール」を実施しています。

ポイ捨て禁止キャンペーン	実施月
道の駅きらら多伎	6 月
道の駅湯の川・出雲市駅	7 月
出雲文化伝承館	10 月
出雲ドーム	3 月
出雲地域 18 万人ポイ捨て一掃大作戦	10 月
出雲地域一斉不法投棄パトロール	8 月

・美化サポートクラブ

きれいで住みよい町をつくるため、定期的にボランティアで清掃活動をする団体を募集・認定し、障害保険の加入や腕章・清掃用具の贈与など、その活動を支援しています。

平成 19 年度現在、10 団体、339 人の方が活動されています。



トピック

美しい景観は市民の貴重な財産です

本市には、神話のふるさととして出雲大社をはじめとする多くの神社があり、古くからの町なみや築地松など特徴のある景観が多く見られます。

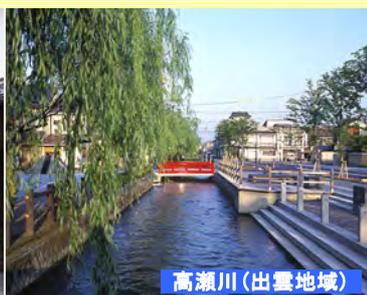
これらの「出雲らしい」景観を市民の貴重な財産として保全し、後世に継承していくことは私たちの責務です。



真名井の社家通り(大社地域)



木綿街道(平田地域)



高瀬川(出雲地域)



立久恵峽(出雲地域)



築地松



園の長浜

基本目標4【循環型社会構築の目標】「もったいない」の心で築く 循環型のまち

平成19年度、本市の廃棄物排出量（ごみ排出量）は57,163tとなっています。平成18年度と比較すると、わずかながら抑制することができましたが、平成15年度以降58,000t前後で推移し、近年はほぼ横ばいの傾向にあります。

なお、「3R」の取り組みとしては、下表に示す結果となりました。

今後、環境への負荷を軽減するため「3R」から「5R」へ活動を拡大し、さらなる資源循環を推進する必要があります。

■「3R」の取り組み状況

事業名	項目	H18 (2006) 実績値	H19 (2007) 現状値
廃食用油リサイクル	回収量	35,645L	40,405L
使用済み割りばしリサイクル	回収量	4.66t	7.34t
使用済み蛍光管リサイクル	回収量	5.59t	4.72t
刈り草堆肥化（試験的）	堆肥化量	65m ³	12m ³
剪定枝等のチップ化	処理量	258t	830t
環境アンテナショップ「さんあーる出雲」	来店者	7,273人	6,100人
生ごみ処理器購入経費補助	個数	286個	277個
リサイクル団体回収補助	登録数	95団体	101団体

■廃棄物対策と資源循環の推進

※廃棄物削減率、リサイクル率はH17年度(2005)を基準値とした率

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 廃棄物排出量〔削減率〕	56,859t	57,163t 〔+0.5%〕	51,000t 〔-10%〕	45,000t 〔-20%〕
② 廃棄物再資源化量〔リサイクル率〕	10,790t 〔18.86%〕	11,763t 〔20.58%〕	15,300t 〔30%〕	18,000t 〔40%〕
③ 廃食用油回収量《再掲》	28,230L	40,405L	60,000L	80,000L
④ 環境アンテナショップ設置数	1店舗	1店舗	2店舗	3店舗
⑤ リサイクル団体回収補助登録団体数	85団体	101団体	120団体	160団体

① 「廃棄物排出量」は増加しており、中間値を達成するためには現状から約6,200t(現状比11%)削減することが求められます。

①② 「廃棄物再資源化量②」は約1,000t増加し、リサイクル率は向上しています。しかし「廃棄物排出量①」が増加していることから、「廃棄物排出量」を削減した上でリサイクル率を高めることが求められます。

④⑤ 「環境アンテナショップ設置数④」は横ばい、「リサイクル団体回収補助登録団体数⑤」は増加し、中間値の約84%に達しています。



用語解説

「3R」と「5R」について

「3R」とは、「Reduce（リデュース）」「Reuse（リユース）」「Recycle（リサイクル）」の“3つのR”活動であり、「5R」とは、この「3R」に「Refuse（リフューズ）」「Repair（リペアー）」を加えた“5つのR”活動です。

- ・ Reduce（リデュース） / 詰め替え用品を利用するなど、ごみを減らす〔発生抑制(減量)〕
- ・ Reuse（リユース） / リターナブル容器の製品を選ぶなど、繰り返し使う〔再利用〕
- ・ Recycle（リサイクル） / 不要になった物を資源として再生利用する〔再生利用〕
- ・ Refuse（リフューズ） / 過剰包装を断るなど、ごみになるものは断わる〔発生抑制(断る)〕
- ・ Repair（リペアー） / 修理しながら長く使い続ける

環境と経済の好循環の推進

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H19 (2007) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
① 風力発電施設の発電量	2,750,000kWh	2,018,243kWh	172,750,000kWh 〔市の95%の世帯〕	172,750,000kWh 〔市の95%の世帯〕
② 市の廃食用油回収によるバイオディーゼル燃料製造量《再掲》	28,230L	40,405L	60,000L	80,000L
③ 新エネルギー導入市有施設数	3施設	3施設	10施設	30施設

- ① 風力発電は風の状態(風速・風向等)によって影響を受けやすく、「風力発電施設の発電量」は減少しています。なお、民間企業により、平成21年完工に向けて「新出雲風力発電所」の整備が進められており、今後、発電量の大幅な増加が見込まれます。
- ③ 「新エネルギー導入市有施設数」は横ばいとなっています。なお、現在建設中の市役所新庁舎では太陽光発電の導入を進めています。



トピック

市内での新エネルギー利用

・キララトゥーリマキ発電所

キララトゥーリマキ発電所では、海岸沿いに吹く強い北西の風を活用し、1,700kW(850kW×2基)の風車で発電を行っています。

・出雲科学館

出雲科学館には、太陽光発電や風力発電を導入しています。また、雨水や地熱も利用し、環境に配慮した施設となっています。出雲科学館は理科学習・生涯学習とあわせ、環境学習の場としての機能も持っています。

・手引ヶ丘公園「風の子楽習館」

風の子楽習館には、太陽光発電や太陽熱利用、風力発電を導入しています。

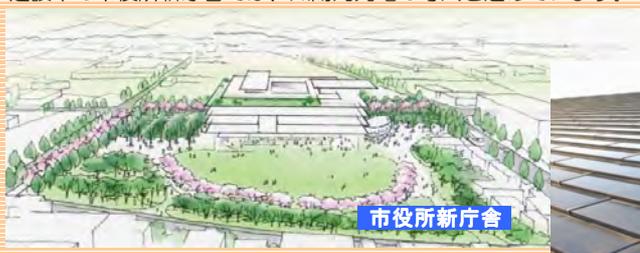
また、雨水利用をはじめ、自然の通風・採光を積極的に取り入れ、環境に配慮した施設となっています。風の子楽習館は自然エネルギーや地球環境等について学習できる体験学習型施設となっています。

・出雲エネルギーセンター

出雲エネルギーセンターでは、廃棄物焼却時に発生する熱を利用して発電を行い、場内・場外へ電力を供給しています。

・出雲市役所新庁舎(建設中)

建設中の市役所新庁舎では、太陽光発電の導入を進めています。



市役所新庁舎

太陽光パネル

・その他、新エネルギー利用に向けた取り組み

民間企業では、日本最大規模の「新出雲風力発電所」の建設が進められている他、「出雲バイオマスエネルギープラント」において木質バイオマスのガス化発電試験が行われています。また、バイオエタノールの製造に向けて、休耕田を活用した多収米の試験栽培等も行われています。

本市ではこれらの取り組みを支援するとともに、水素社会の到来を視野に入れ、産官学の連携により「再生可能エネルギーの利用」と「産業振興」を一体的に進め、「環境先進都市」としての地位確立を目指しています。



キララトゥーリマキ発電所



出雲科学館



風の子楽習館



出雲エネルギーセンター



用語解説

水素社会について

現代社会のエネルギー資源の大半は化石エネルギー(石油、石炭、天然ガスなど)に依存しており、このことが地球温暖化をはじめとする地球環境問題の原因ともなっています。そこで新しいエネルギーとして「水素」が注目されています。水素は燃焼をさせても水を生成するだけの環境にやさしいクリーンエネルギーで、水を原料に製造することもできます。

基本目標5【地球環境の目標】 地球を考え 地域から実践するまち

本市では「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅡ」を策定し、市の事務事業から排出されるCO₂の削減に取り組んでいます。平成19年度、軽油や重油、可燃ごみについては目標を達成しましたが、電気、灯油、都市ガスの使用量は前年と比べ増加しており、削減に向けた更なる取り組みが必要です。

また、「家庭版環境 ISO」や「こどもエコクラブ」、「緑のカーテン」など、少しずつではありますが地域の取り組みも進んでいます。

今後も「くらしの中の環境フェア」や「環境新聞・エコ〜つうしん」などを通じて温暖化・環境問題に関する情報提供を行い、意識啓発や温暖化防止に向けた取り組みを推進します。

地球温暖化防止の取り組み

※CO₂の削減率は平成17(2005)年度を基準とした率

目標設定項目	H17(2005) 計画策定時	H19(2007) 現状値	H23(2011) 中間値	H28(2016) 目標値
① 市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排出量 ※〔〕はCO ₂ の削減率	8,480t-CO ₂	8,300t-CO ₂ 〔-2%〕	—	7,890t-CO ₂ 〔-7%〕
② 環境 ISO 認証取得事業所数	20 事業所	20 事業所	30 事業所	40 事業所
③ 家庭版環境 ISO 登録世帯数	120 世帯	173 世帯	500 世帯	1,000 世帯
④ 学校版エコライフチャレンジしまね 参加小中学校割合 ※市内小中学校数 53 校	0 校	4 校 〔8%の小中学校〕	50%の小中学校	100%の小中学校
⑤ 風力発電施設の発電量《再掲》	2,750,000kWh	2,018,243kWh	172,750,000kWh 〔市の95%の世帯〕	172,750,000kWh 〔市の95%の世帯〕
⑥ 新エネルギー導入市有施設数《再掲》	3 施設	3 施設	10 施設	30 施設
⑦ 3km未満の市職員のノーマイカー通勤率 《再掲》 ※〔〕はCO ₂ の年間排出量	57% H18(2006)年度 〔74,400kg-CO ₂ 〕	46% 〔49,598kg-CO ₂ 〕	80% 〔34,800kg-CO ₂ 〕	80% 〔34,800kg-CO ₂ 〕

- ① 「市の事務及び事業から発生するCO₂排出量」は計画策定時から約180t-CO₂(約2%)減少しており、目標を達成するためには現状からあと約410t-CO₂(現状比約5%)削減することが求められます。
- ②～④ 環境マネジメントシステムについては、「環境 ISO 認証取得事業所数②」は横ばいであり、中間値の約67%となっています。また、「家庭版環境 ISO 登録世帯数③」及び「学校版エコライフチャレンジしまね参加小中学校割合④」は増加していますが、「家庭版環境 ISO」は中間値の約35%、「学校版エコライフチャレンジしまね」は約15%にとどまっています。



トピック

みんなで「家庭版環境 ISO」に取り組もう

「家庭版環境 ISO」とは本市が実施している独自の制度です。国際標準化機構(ISO)が定める環境管理システムの考え方を取り入れ、家庭で環境に優しいルールをつくり、実行・点検・改善していく取り組みです。

家庭で身近にできる「環境にやさしい行動」を継続するため、計画を立て、実行し、次の行動に反映できるように、環境に優しい生活を送る『きっかけ』となるものです。

市は環境に優しい生活を実践する家庭を応援しています(実践家庭には、ささやかな生活応援グッズを贈呈します)。

家庭版環境 ISO 登録数

年度	登録世帯数 ()は累計
H16(2004)年度	32 (32)
H17(2005)年度	83 (115)
H18(2006)年度	34 (149)
H19(2007)年度	24 (173)

関連計画 出雲市地域省エネルギービジョン

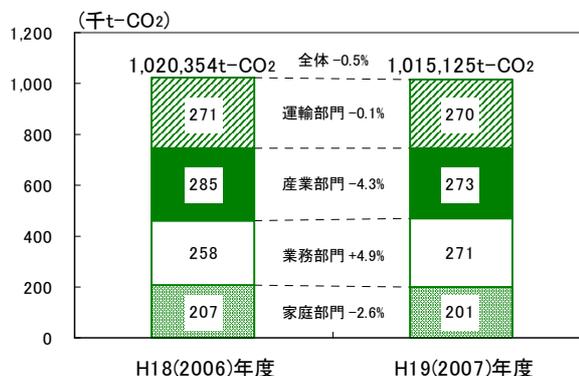


平成 19 年度に策定した「出雲市地域省エネルギービジョン」では、ビジョンを確実に推進するため、年度ごとに、CO₂の排出量や取り組み状況を点検・評価することとしています。以下に目標値や現状など、点検・評価内容を示します。

■取り組みの現状と数値目標（※省エネルギービジョンでは基準年をH18(2006)年度としています。）

目標設定項目	H18(2006) 基準年度値	H19(2007) 現状値	H28(2016) 目標値
① CO ₂ 排出量(市全体)	1,020,354t-CO ₂	1,015,125t-CO ₂ 基準年度比-0.5%	基準年度比 約20%削減
② 家庭部門	206,704t-CO ₂	201,253t-CO ₂ 基準年度比-2.6%	〔目標設定根拠〕 30%削減
③ 業務部門	258,145t-CO ₂	270,823t-CO ₂ 基準年度比+4.9%	〔目標設定根拠〕 42%削減
④ 産業部門	284,828t-CO ₂	272,711t-CO ₂ 基準年度比-4.3%	〔目標設定根拠〕 ±0%
⑤ 運輸部門	270,677t-CO ₂	270,338t-CO ₂ 基準年度比-0.1%	〔目標設定根拠〕 17%削減

- ① 市全体のCO₂排出量は基準年度と比べて約0.5%減少しています。
- ②～⑤ 部門別にみると、産業部門は-4.3%、家庭部門は-2.6%、運輸部門は-0.1%と減少していますが、業務部門は増加し、+4.9%となっています。



■取り組み状況点検・評価項目

ビジョンでは、取り組み状況を定量的に点検・評価するための項目を30項目設定しています。そのうち、環境基本計画の目標設定項目と同じものを除いた12項目を右表に示します。

平成19年度現在、未実施のものもありますが、今後はこの値を基準とし、年度ごとに点検・評価を行うこととなります。

点検・評価項目	平成19(2007)年度 現状値
環境学習プラン	
いずも環境講座受講者数	95人
省エネ学習実践校数	4校
環境啓発イベント推進プラン	
出雲ふるさとの森植樹祭参加者数	550人
啓発グッズ貸出件数	3件
環境マネジメントシステム普及促進プラン	
エコアクション21取得事業所数	3事業所
省エネ行動強化プラン	
つる性植物の種配布数	未実施
マイカー通勤自粛推進事業所数	未実施
生ごみ処理器購入補助数	236件、277台
省エネメリット還元プラン	
省エネポイント発行数	未実施
機器等の導入促進プラン	
公共施設への省エネ機器導入件数	未実施
省エネ診断の(専門家)派遣数	未実施
省エネ型製品普及推進優良店数	1店舗

関連計画 いずもエコオフィス・アクションプログラムⅡ



本市では平成 18 年度に出雲市役所地球温暖化対策実行計画「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅡ」を策定し、市の事務事業から発生する温室効果ガスを平成 28 年度までに 7% 削減することを目標に掲げ、温暖化対策に取り組んでいます。

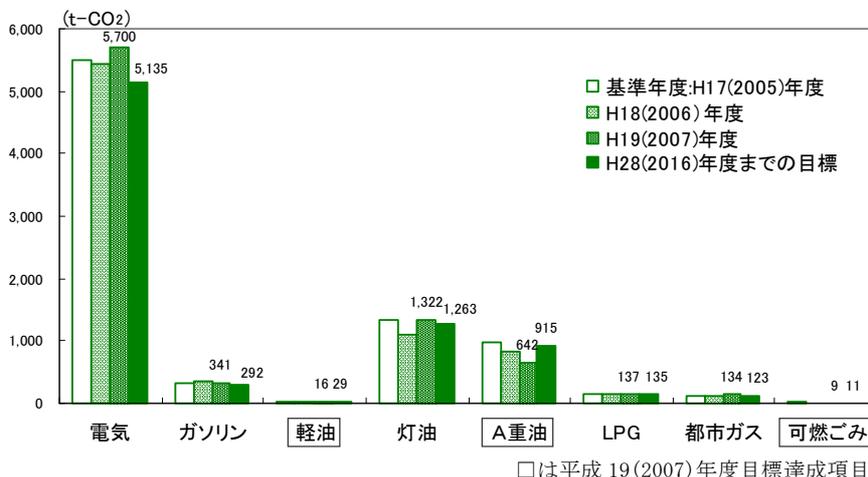
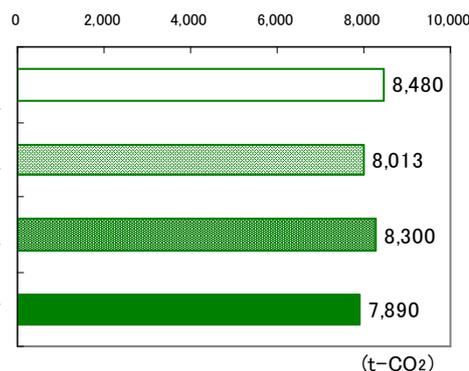
計画期間	平成 19 (2007) 年度から平成 28 (2016) 年度までの 10 年間 なお、計画の進捗状況や社会情勢の変化等により必要に応じて見直しを行います		
実行目標	CO₂ 排出量を平成 17 (2005) 年度比 7.0% 削減 通勤距離 3km 未満の市職員ノーマイカー通勤率 80%以上		
基本方針1	環境にやさしいエコオフィスの創出	基本方針5	環境に関する研修及び情報提供の推進
基本方針2	グリーン購入の促進	基本方針6	環境マネジメントシステムの運用手順の拡大
基本方針3	ごみ減量とリサイクルの推進	基本方針7	環境保全活動への参加促進
基本方針4	環境に配慮した建築物の建築・維持管理		

CO₂ 排出状況と数値目標

平成 19 年度の CO₂ 排出量は約 8,300 t-CO₂ となっており、前年度からは約 287t-CO₂ 増加しています。

基準年度(約 8,480t-CO₂)と比較すると約 2%(約 180t-CO₂)減少しており、平成 28 年度までの削減目標(基準年度比 7%削減)に対し、約 5%及ばない結果となりました。平成 19 年度段階で削減目標を達成している項目は軽油・A重油・可燃ごみとなっています。

この結果から、更なる削減に向けた活動を推進する必要があると思われますが、個々の取り組みには限界があります。電気使用による排出量が約 70%を占めていることから、電力消費の少ない省エネ型の冷暖房機器の導入やラビット式蛍光灯をインバーターへ変更することにより、目標を達成できると考えられます。



基本目標6【環境学習や環境保全活動の目標】ともに学び行動する 環境意識が高いまち

出雲科学アカデミーにおいて「環境講座」を開催し、水環境・大気汚染・森林と農地保全などをテーマに合計6回、市民37名が受講しました。

また、ポイ捨て一掃大作戦の参加者は毎年増加しており、平成19年度には市民7,384人が市内各地で空き缶拾いや清掃活動を行いました。

■環境学習・環境保全活動の推進

目標設定項目	H17(2005) 計画策定時	H19(2007) 現状値	H23(2011) 中間値	H28(2016) 目標値
① こどもエコクラブ登録団体数	8団体	7団体	20団体	30団体
② 環境ISO認証取得事業所数《再掲》	20事業所	20事業所	30事業所	40事業所
③ 家庭版環境ISO登録世帯数《再掲》	120世帯	173世帯	500世帯	1,000世帯
④ 学校版エコライフチャレンジしまね参加小中学校割合《再掲》※市内小中学校数53校	0校	4校 [8%の小中学校]	50%の小中学校	100%の小中学校
⑤ ポイ捨て一掃大作戦参加者数《再掲》	7,000人	7,384人	10,000人	15,000人

① 「こどもエコクラブ登録団体数」は1団体減少し、中間値の約35%となっています。

②～⑤ その他の項目については、「環境ISO認証取得事業所数②」は横ばい、「家庭版環境ISO登録世帯数③」及び「学校版エコライフチャレンジしまね参加小中学校割合④」は増加しています。「環境ISO」は中間値の約67%に達していますが、「家庭版環境ISO」は約35%、「学校版エコライフチャレンジしまね」は約15%にとどまっています。また、「ポイ捨て一掃大作戦参加者数⑤」は増加し、中間値の約74%に達しています。



トピック

出雲市民ボランティアウィークに参加しませんか

毎年11月に市民のボランティアへの関心を高め、より身近に感じる機会として、子どもから大人までボランティア活動を展開しています。平成19年度は118の活動メニューに11,102人の参加がありました。

■環境情報の提供と共有

【網掛け】中間値または目標値を達成

目標設定項目	H17(2005) 計画策定時	H19(2007) 現状値	H23(2011) 中間値	H28(2016) 目標値
① 環境新聞の発刊	年2回	年3回	年4回	年6回
② 暮らしの中の環境フェア入場者数	2,000人	2,000人	4,000人	8,000人
③ 自然体験事業参加者数《再掲》	600人	713人	1,000人	1,500人
④ 出雲「花と緑」総合フェスティバル入場者数《再掲》	20,000人	20,000人 	20,000人	20,000人
⑤ 21世紀出雲産業見本市入場者数	13,000人	13,000人 	13,000人	13,000人

①③ 「環境新聞の発刊①」は年1回増加、「自然体験事業参加者数③」は約100人増加しており、その他の項目についてはいずれも横ばいとなっています。

①～③ 「環境新聞の発刊①」は中間値の約75%、「暮らしの中の環境フェア入場者数②」は50%、「自然体験事業参加者数③」は約71%に達し、その他の2項目は目標を達成しています。

◆平成19年度の取り組み

・「こどもエコクラブ」の支援

「こどもエコクラブ」とは、こどもが誰でも参加できる環境活動クラブです。

環境省が中心となって行っている事業ですが、こどもたちが地域で行う環境学習・環境活動に対し、出雲市としても支援を行っています。

本市では平成19年度現在、7団体が登録し、小中学生とサポーター（大人）、合計209人が、生き物調査や町のエコチェック、空き缶のリサイクル活動などを行っています。



こどもエコクラブのキャラクター

・緑のカーテン

夏の日射を避け、室内を涼しくする工夫のひとつとして、ゴーヤやヘチマなどの“つる性植物”を植え「緑のカーテン」を作り、エアコンの省エネを推進しています。



緑のカーテン(中央保育所)

・くらしの中の環境フェアの開催

地球温暖化防止や環境保全対策の啓発イベントとして、平成12年度から毎年開催しています。

平成19年度は、「フローらいずも」を会場に、環境活動の紹介やリサイクル自転車の販売、環境関連事業所の活動紹介などを行いました。



くらしの中の環境フェア

・「環境新聞・エコ〜つうしん」の発刊

市民6人の環境特派員が各地を取材し、市民の視点で環境全般に関する情報をまとめ、環境に優しい暮らしの提案や市内の活動・環境政策の紹介などを行っています。

平成19年度は3回発行し、紙面を通じて市民一人ひとりの環境に対する意識啓発と取り組みを促進する活動を展開しています。



環境新聞・エコ〜つうしん



市民意識調査結果



ここでは、平成 20 年度に実施した市民意識調査結果の概要を示します。

本調査は「出雲市環境基本計画」及び「出雲市地域省エネルギービジョン」の進捗状況等を把握するとともに、市民の皆様のご意見を参考とし、環境保全に関する取り組みを一層推進することを目的に行いました。

【調査時期】平成 20(2008)年 8 月

【調査対象】1,000 人（無作為抽出により市民 840 名、環境美化推進員 160 名）

【回収数（回収率）】411（41.1%）

1. 環境に関すること

%は回答者の割合

環境の満足度		
<p>《生活環境》</p> <p>【満足度の高いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①空気のきれいさ(87%) ②上水道の整備(82%) ③ごみの分別収集、ごみ出しの状況(79%) ③近所の生活騒音(79%) <p>【満足度の低いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ポイ捨て、飼い犬のフンの放置(29%) ②廃棄物の不法投棄、野外焼却(46%) ③河川・湖沼のきれいさ(48%) 	<p>《自然環境》</p> <p>【満足度の高いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①野山や森林、田畑など緑の豊富さ(82%) ②自然のながめ(77%) <p>【満足度の低いもの】</p> <p>※特に満足度の低いものはありません</p>	<p>《快適環境》</p> <p>【満足度の高いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文化財や遺跡など歴史的遺産の豊富さ(58%) ②ゆとりの空間(58%) ③都市の緑化(54%) <p>【満足度の低いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①水と親しめる水辺の整備(36%) ②まちなみ景観の美しさ(46%)

<p>出雲市の環境の将来像</p> <p>【賛同意見の多いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①空気や川の水がきれいで公害のないまち <p>【賛同意見の少ないもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①いつでもどこでも誰でも環境保全活動に参加でき、環境を学ぶことができるまち ②廃棄物が少ない世界一のリサイクルをめざすまち 	<p>地球環境への関心</p> <p>【関心の高いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地球温暖化(95%) ②オゾン層の破壊(86%) <p>【関心の低いもの】</p> <p>※特に関心の低いものはありません</p>
--	---

取り組み活動		
<p>《実施状況》</p> <p>【既に取り組みされているもの(常に実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ポイ捨てはしない(96%) ②ごみをきちんと分別(92%) ③廃食用油や生ごみ等を流さない(89%) <p>【取り組み意欲の低いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境教育・啓発活動への参加(実施する気はない：13%) <p>※その他の項目は「実施する気はない」と回答する割合が 10%以下</p>	<p>《環境保全活動への参加意欲》</p> <p>【積極的な参加意欲がある人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 14% <p>【条件が整えば参加意欲のある人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 81% <p>【参加意欲のない人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5% 	<p>《参加意欲がない理由》</p> <p>【主要な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢・健康・体力的に無理だと思う

要望	
<p>《事業者への要望》</p> <p>【要望の多いもの(上位 3 項目)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大気汚染、水質汚濁、騒音・振動などの徹底した公害対策 ②事業活動で生じる廃棄物の削減 ③環境に優しい製品の導入・開発 <p>【要望の少ないもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ISO14001 の取得 	<p>《市への要望》</p> <p>【要望の多いもの(上位 3 項目)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地球温暖化対策の充実 ②風力・太陽光などの新エネルギーの積極的な導入 ③市民へ向けた環境に関する情報提供の充実 <p>【要望の少ないもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ISO14001 の認証継続への取り組み ②環境学習や環境啓発イベントなどへの参加する場の提供

2. 省エネルギーに関すること

%は回答者の割合

家庭での省エネルギー意識		
<p>《省エネルギーのイメージ》</p> <p>【上位3項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地球温暖化防止のために必要なこと(52%) ②エネルギーを効率的に使用するために必要なこと(27%) ③節約することで家計が楽になる(17%) 	<p>《家庭での省エネ意識》</p> <p>【回答者が多い項目順】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①常に家族全員が心がけている(42%) ②時々心がけている(31%) ③主に家族の誰かが心がけている(23%) ④あまり意識していない(3%) 	<p>《今後の省エネ意欲》</p> <p>【上位3項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日頃から実行しているがまだ不十分(65%) ②実行したいが方法がよくわからない(11%) ③十分実行しており、これ以上は困難(10%) <p>▶ 《実行できている主要な理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①光熱費の削減のため(63%) ②次世代に良い環境を残すため(61%) ③健康のため(16%)

家庭で取り組まれている省エネルギー行動	
<p>《いつも取り組む家庭が多い省エネ行動》</p> <p>【上位5項目】()はいつも取り組んでいる家庭の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人のいない部屋の照明は、こまめな消灯を心がけている(92%) ②洗濯するときは、まとめて洗うようにしている(86%) ③冷暖房機器は不必要なつけっぱなしをしないように気をつけている(85%) ④冷蔵庫は壁から適切な間隔をあけて設置している(81%) ⑤こたつはこたつ布団と一緒に敷布団と上掛けも使用し、温度設定をこまめに調節している(77%) 	<p>《取り組む家庭が少ない省エネ行動》</p> <p>【上位5項目】()は取り組んでいない家庭の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①チーム・マイナス6%のチーム員として登録している(96%) ②夏の日射をさげ室内を涼しくする工夫として、つる性の植物を植え、「緑のカーテン」を作っている(74%) ③外出時はできるだけ車に乗らず、公共交通機関を利用するようにしている(69%) ④マイカーを利用した通勤を自粛している(51%) ⑤煮物などの下ごしらえは電子レンジを活用している(50%)

家庭への省エネルギー機器等の導入意欲		
<p>《既に導入・導入を検討》</p> <p>【導入意欲の高いもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①省エネ型蛍光灯、電球型蛍光灯(64%) ②省エネルギータイプの家電製品(60%) 	<p>《補助金等があれば導入を検討》</p> <p>【上位5項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①太陽光発電システム(36%) ②ハイブリッド自動車(33%) ③高効率型給湯器(29%) ④住宅の断熱対策(28%) ⑤省エネタイプの家電製品(22%) ⑥太陽熱温水器(22%) 	<p>《導入するつもりはない・特に考えていない》</p> <p>【上位5項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①風力発電システム(81%) ②太陽光発電システム(56%) ③ハイブリッド自動車(53%) ④太陽熱温水器(52%) ⑤高効率型給湯器(49%)

地域で省エネルギーを進めるために必要なこと		
<p>《重要であり具体化すべきこと》</p> <p>【上位5項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公共施設における率直的な省エネ行動の実践(70%) ②省エネ行動や機器、制度についてのわかりやすい情報の提供(70%) ③学校や自治会における省エネ学習の推進(66%) ④事業所の省エネ対策の支援・指導(62%) ⑤アイドリングストップの推進によるガソリン使用量の削減(55%) 	<p>《重要ではあるが実行困難》</p> <p>【上位5項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自動車の共同利用、公共交通機関利用の推進(60%) ②省エネ推進のための市独自の取り決めや制限などの検討(43%) ③公共施設に率先して省エネ機器を導入(37%) ④地域の省エネ活動を推進する組織の設立(37%) ⑤省エネ活動や環境家計簿の普及・省エネ実践コンクールの実施等(35%) 	<p>《あまり重要とは思わない》</p> <p>【上位3項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①省エネに関する専門家のアドバイスを受ける支援制度の創設(23%) ②省エネ活動や環境家計簿の普及・省エネ実践コンクールの実施等(22%) ③地域の省エネ活動を推進する組織の設立(18%)



はじめよう省エネライフ

島根県では県民みんなでCO₂を10%ダイエットする運動を進めています。
みんなで取り組みましょう。(出典：島根県「しまねCO₂ダイエット行動モデル」)

■ 家庭における行動モデル

[年間 500 kgの CO₂ ダイエットメニュー]



	取り組み	CO ₂ 削減量	年間節約額
冷暖房の温度調節と 利用時間で減らそう 	冷房の設定温度を 26℃から 28℃に 2℃高くする	40kg	1,340 円
	暖房の設定温度を 22℃から 20℃に 2℃低くする	70kg	2,360 円
	冷房の利用時間を 1日 1時間減らす	6kg	210 円
	暖房の利用時間を 1日 1時間減らす	13kg	450 円
電気の使い方で 減らそう  	テレビの利用時間を 1日 1時間減らす	30kg	1,000 円
	パソコンの利用時間を 1日 1時間減らす	6kg	190 円
	テレビ・パソコン等使用しない時はコンセントを抜く	71kg	2,400 円
	冷蔵庫はものを詰め込みすぎないようにする	29kg	970 円
	冷蔵庫は、冬には設定温度を「強」から「中」にする	41kg	1,370 円
	夜中にジャーの保温をやめる	40kg	1,360 円
	電気ポットを長時間使わない時はプラグを抜く	71kg	2,380 円
ガス・水の使い方で 減らそう 	ガス給湯器の設定温度を 40℃から 38℃に 2℃低くする	19kg	1,940 円
	ガスコンロの炎をなべ底からはみ出さないようにする	5kg	530 円
	シャワーの使用時間を 1日 1分短くする	27kg	2,820 円
レジ袋を断って、電球 を替えて減らそう 	買い物の際はレジ袋を断り、マイバッグを持参する	14kg	—
	白熱電球から蛍光灯に取り替える	55kg	1,860 円

これらの取り組みを全て実践すると



節約額 年間約 2万円

■ 車における行動モデル

[年間 300kg の CO₂ ダイエットメニュー]



	取り組み	CO ₂ 削減量	年間節約額
車の利用を控えて減らそう 	近くの用事には車を使用しない(週に1日往復4km)	42kg	2,590円
エコドライブで減らそう 	発進時にふんわりアクセル「eスタート」をする (普通より少し緩やかに発進する。目安は5秒で時速20キロ。)	261kg	15,840円

これらの取り組みを全て実践すると



節約額 年間約 1.8万円

■ オフィスにおける行動モデル

[年間 3,000kg の CO₂ ダイエットメニュー]



	取り組み	CO ₂ 削減量	年間節約額
冷暖房の温度調節と利用時間で減らそう 	冷房の設定温度を26℃から28℃に2℃高くする	586kg	10,160円
	暖房の設定温度を22℃から20℃に2℃低くする	845kg	14,640円
	冷房の利用時間を1日1時間減らす	293kg	5,080円
	暖房の利用時間を1日1時間減らす	422kg	7,320円
電気の使い方で減らそう  	照明の点灯時間を1日1時間減らす(昼休み等)	307kg	5,310円
	パソコンの利用時間を1日1時間減らす(昼休み等)	224kg	3,890円
	帰宅時にパソコン・プリンター・テレビのコンセントを抜く	77kg	1,320円
	帰宅時にコピー機のコンセントを抜く	196kg	3,400円
	電気ポットを長時間使わない時はプラグを抜く	71kg	1,230円

これらの取り組みを全て実践すると



節約額 年間約 5.2万円

水をきれいにするために私たちでできること

よごれや残り物を水に流すと、魚が棲める水質（BOD5mg/L）にするために必要な水の量は、浴槽（1杯 300L）何杯分になるかご存知ですか。

☆ 一般にコイやフナが棲める水質のBOD値はおよそ5mg/L以下です。



もし〇〇を水に流すと……

魚が棲める水質にするために必要な水の量は、浴槽何杯分になるでしょうか。

浴 槽 =300L



しょう油
大さじ1杯 (15ml)



1.5 杯



みそ汁
お椀1杯 (200ml)



4.7 杯



牛乳
コップ1杯 (180ml)



9.4 杯



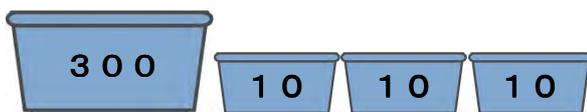
マヨネーズ
大さじ1杯 (15ml)



12 杯



天ぷら油
(500ml)



330 杯

(資料：国立環境研究所)



出雲市のレジ袋



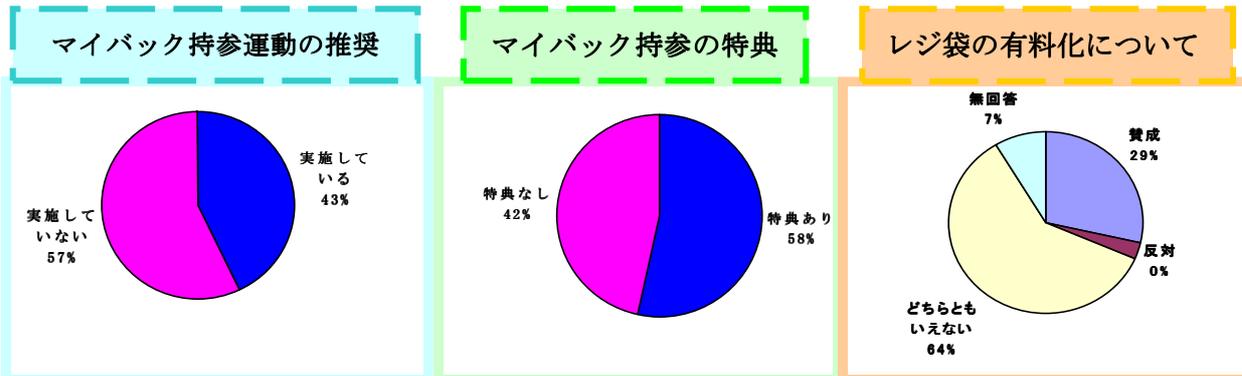
市内事業所（店舗）を対象に平成20年3月、レジ袋の減量化に関するアンケートを実施しました。

1. レジ袋の使用量及びマイバック持参率

	調査対象	回答数	集計対象	使用枚数	マイバック持参率
1,000m ² 以上の店舗	37 店舗	19 店舗	17 店舗	19,268,800 枚	15.84%
コンビニエンスストア	39 店舗	15 店舗	14 店舗	2,657,955 枚	0.74%
合計	76 店舗	34 店舗	31 店舗	21,926,755 枚	11.70%

※ 回答のあった34店舗のうち、使用枚数が記載されている31店舗のデータを集計

※ マイバック率は、各店舗毎にマイバックを持参しなかった場合の枚数を積算し算出した率



2. アンケートに基づく推計

	アンケート結果		推計値		
	集計対象	使用枚数	推計対象	使用枚数	推計根拠
1,000m ² 以上の店舗	17 店舗	19,268,800 枚	37 店舗	35,840,131 枚	店舗面積比率
コンビニエンスストア	14 店舗	2,657,955 枚	39 店舗	7,404,306 枚	1店舗平均使用枚数×店舗数
合計	31 店舗	21,926,755 枚	76 店舗	43,244,437 枚	

- ・ 市民1人当たりの年間使用量 292枚/人 (1世帯あたり865枚)
- ・ // 年間CO₂排出量 29.2kg-CO₂/人 (// **86.5kg-CO₂**)
(レジ袋1枚あたり100g【環境省資料より】)

1世帯あたりのCO₂削減量 → 通勤距離往復20kmの人が、約1ヶ月間自転車や徒歩で通うと削減できるCO₂の量です

・ 出雲市全体のCO₂排出量 **約4,326,000kg-CO₂**
出雲市全体では → 自家用乗用車で24,980,000km走ると同じ排出量です。
 ※ 地球(約40,000km)を約600周します。



【 × 毛 】

5 R 施策の推進

廃棄物のリサイクルの推進

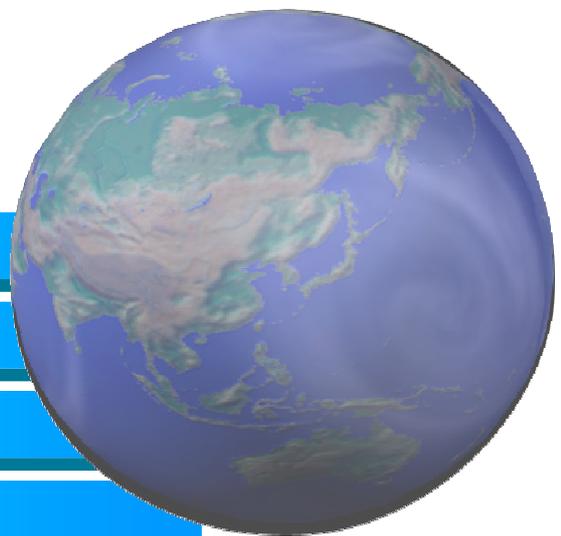
生活環境の向上と普及啓発

森林保全の推進

水素社会の構築

央道湖・神西湖の自然環境を守る取り組み

国際保護鳥トキ保護増殖事業



出雲市環境レポート 2008（2007 年度のまとめ）

出雲市環境政策部 環境保全課
〒693-8530 島根県出雲市今市町 109-1
TEL. 0853-21-6535 FAX. 0853-21-6597